

只見町の防災力がさらに強化

魚沼市と災害協定を結びました

11月10日、新潟県魚沼市と「災害時における相互応援に関する協定」を結びました。

この協定により、どちらかの地域で地震や風水害などの大規模な災害が発生した場合、食糧や生活必需品の提供や、救助や復興に必要な資機材の提供などを相互に行うことができるようになります。

魚沼市と観光的な交流は行われてきましたが、今後は防災面でも協力し、お互いが災害に強い自治体を目指します。



▲協定書を交わす目黒町長と大平魚沼市長

地域づくりは人づくり

地域づくり講演会を開催

11月24日、長野県川上村長で全国町村会長でもある藤原忠彦氏を招き、季の郷湯ら里で講演会を開催し、約100名が聴講しました。

藤原氏はレタスなどの高原野菜で全国有数の名産地となった川上村が現在は海外にも野菜を輸出していることや、野菜の作り手の健康のために行っている「ヘルシーパーク構想」などの取り組みを紹介されました。また、藤原氏はあきらめずに常に挑戦することが大切と話され聴講者は熱心に聞き入っていました。



▲これまでの川上村の取り組みについて話される藤原村長

柏市→只見町産の米 只見町→柏市産ブルーベリー

柏市と給食で食を通じた交流

只見町と柏市の学校給食で今年で3回目となる産品の交換が行われました。11月18日、柏市の柏第8小学校の5年生の給食で只見町のお米が振る舞われ、11月19日、只見町では小・中学校の給食で柏市のブルーベリージャムが振る舞われました。どちらの児童も美味しいと笑顔を見せながら食べていました。

町はこの交流事業をきっかけに、さらに只見産米の品質向上やブランド力アップに取り組んでいきます。



▲只見のご飯をもりもり食べる柏市の児童ら



▲只見でも柏市産品を美味しくいただきました



▲柏市のブルーベリージャムはかぼちゃパンと一緒に!

## 平成27年度中完成へ 介護老人福祉施設が起工

11月13日、新たに整備される地域密着型介護老人福祉施設の地鎮祭と起工式が建設予定地の長浜地区で行われました。

建設される施設は、少人数グループをひとつの生活単位（ユニット）として区分けが行われるユニット式で、居室は全29床になります。

地域密着型介護老人施設の建設は、施設入居待機者の解消と、雇用の創出が期待されます。



▲工事の安全を願う関係者

## 日本赤十字社から

## 2団体に感謝状を贈呈

11月12日、長年にわたり献血の推進に尽力された功績が認められた「電源開発株式会社 東日本支店 田子倉電力所」と、「株式会社 JPH アイテック 東日本カンパニー 田子倉事業所」が日本赤十字社福島支部から感謝状を贈呈されました。

献血は健康な方であればどなたでもできる身近なボランティアです。皆様には献血の必要性を考えていただき、積極的な協力をして頂きますようお願いいたします。



▲今後も引き続きご協力をお願いします

## 長年の租税教育に対して

## 朝日小学校に感謝状

11月20日、田島税務署の野口署長が朝日小学校を訪れ、朝日小学校の児童が長年に渡って税に関する作文や絵はがきコンクールなどへ作品を応募するなど取り組んできた事に対して、朝日小学校の荒川校長先生へ感謝状と記念品を贈呈しました。

朝日小学校は、引き続き納税の意義や仕組みなど正しい知識を児童がしっかりと身につけるような取組みを行っていかれます。



▲感謝状を手渡す野口署長(左)と荒川校長

## 地域の皆さんいつもありがとうございます

## 明和小学校で感謝の給食会

10月23日、日頃から児童の安全な生活のため活動されている見守り隊の皆さんや明和駐在さん、総合学習や畑作りでお世話になった方々を招いて感謝の給食会を行いました。6年生がお世話になった場面を、画面に映して活動などを振り返りながら皆で楽しく給食を食べました。

また、この給食会には福島県の「いただきます。ふくしまさん」事業を活用し、いわなや野菜などは地元食材が使われました。



▲お世話になっている方と楽しく話しながら給食を食べました